



スマホの庄野さんの声に合わせ、くらしの作文を読み上げる「ぴんころ男会」のメンバー=名古屋市守山区で

庄野さん 若い層にも広めたい

「毎日続けるのは大変だったけど、いろんな文章に出会えて勉強になった」。庄野さんは一年を振り返る。

始めたのは昨夏に会社のCSR（企業の社会的責任）推進員になつたのがきっかけ。社会貢献を考える中で、「コミュニケーションが活発な社会になれば」と声を出す音読に着目した。

これまでの音読講座は高齢者が対象だったが、十月に初めて親子向けの講座を開催。「これから若い層にも広めたい」と話す。



「話せる商店街」を目指す五藤千晴さん=名古屋市瑞穂区で

庄野さんによる音
読が「できるまで」の
動画を中日ウェブで
ご覧いただけます。



「毎日続けるのは大変だったけど、いろんな文章に出会えて勉強になった」。庄野さんは一年を振り返る。

始めたのは昨夏に会社のCSR（企業の社会的責任）推進員になつたのがきっかけ。社会貢献を考える中で、「コミュニケーションが活発な社会になれば」と声を出す音読に着目した。

これまでの音読講座は高齢者が対象だったが、十月に初めて親子向けの講座を開催。「これから若い層にも広めたい」と話す。

「くらしの作文」ネット配信1年

東海テレビHPで庄野アナウンサー

本紙生活面に掲載されている「くらしの作文」の音読のインターネットを通じた配信が三十日で一年となる。東海テレビの庄野俊哉アナウンサー（五〇）が「声を出す機会を増やして、社会の雰囲気を明るく」と取り組んできた活動は、各地で地域づくりや健康維持などに役立てられ始めている。

（寺西雅広）

「音声に合わせて読んでみましよう」。名古屋市守山区にあるホールの会議室。同区社会福祉協議会の職員が、こう呼び掛けた。スマートフォンを操作すると、庄野さんの音読が流れる。その声に合わせ、集まった十一人の高齢男性たちが手元の作文を読み上げる。ゆっくり大きな声で読む人もいれば、テンポ良く読

む人も。読み終えると、男性たちは「いい文だねえ」と笑顔を見せた。

男性たちは区内の六十五歳以上の男性でつくる地域グループ「ぴんころ男会」のメンバー。二年前に発足し、月一

回のペースで集まって唱歌を歌ったり、地元の街を探索したりして交流を深めている。

その活動の一つに今夏から新たに加わったのが、くらしの作文の音読だ。

くらしの作文は、読者から寄せられる作文を掲載。その

日の掲載分を庄野さんが読み、毎朝六時ごろから東海テレビのホームページなどで聴けるようになっている。庄野

さんは各地で音読講座も開いており、八月に同区社会福祉

協議会の招きで講座を開催。

そこにメンバーが参加し、以

て、同市瑞穂区の瑞穂通商店街でサケや干物を扱う「吾東」の店先で販売員の五藤千晴さん（三九）が元気な声を響かせた。

六月、庄野さんの活動を知り、商店街での講座を依頼。

店主ら約二十人が参加し、息

継ぎや言葉の強弱のつけ方を学んだ。五藤さんは今も週に

数回、講座で教わったことを

意識してスマホの音声と一緒に声を出す。

商店街の強みは、買い物客との触れ合い。きちんと声を

出しての会話は欠かせない。五藤さんは、そう考える。安

さや品ぞろえで大型スーパー

に対抗してもきりがない。商

店街は人と話す生活の場

店内には庄野さんの知り合

いのイラストレーターがつく

ってくれた「話せる商店街」

のロゴも置かれている。「二

回目の講座も開きたい。それ

までにもっと上達できれば」と意気込む。

音読の輪地域で仲間で

「いらっしゃいませー」。この日は、メンバー有志によるバンドの練習後。自宅でも音読しているという白田和幸さん（七五）は「声を出すと気分がすっきりする」とほぼ笑顔で語る。竹内敏晴さん（七四）も「音読すると文章が頭に入ってきた」とうなづいた。

同協議会の吉岡弘事務局次長は「高齢男性は家にこもり

がち。手軽にできる音読を通じて、外に出ることになれば」と孤立防止の効果も期待。今後も音読講座を開く予定で、「音読を区全体に広めていきたい」と話す。

「いらっしゃいませー」。

同市瑞穂区の瑞穂通商店街で

サケや干物を扱う「吾東」の

店先で販売員の五藤千晴さん

（三九）が元気な声を響かせた。

六月、庄野さんの活動を知り、商店街での講座を依頼。

店主ら約二十人が参加し、息

継ぎや言葉の強弱のつけ方を学んだ。五藤さんは今も週に

数回、講座で教わったことを

意識してスマホの音声と一緒に声を出す。

商店街の強みは、買い物客との触れ合い。きちんと声を

出しての会話は欠かせない。五藤さんは、そう考える。安

さや品ぞろえで大型スーパー

に対抗してもきりがない。商

店街は人と話す生活の場

店内には庄野さんの知り合

いのイラストレーターがつく

ってくれた「話せる商店街」

のロゴも置かれている。「二

回目の講座も開きたい。それ

までにもっと上達できれば」と意気込む。